

## 海外におけるごみ焼却発電事業の開発に向け協力 ～ フィリピン・マニラのごみ焼却発電事業推進に向け大統領と意見交換 ～

カナデビア株式会社は、ごみ焼却発電（Waste to Energy：WtE）事業の海外展開を積極的に行っており、これまで培った技術や多数の実績を生かして WtE の事業開発に取り組んでいます。

こうした中、訪日したフィリピンのフェルディナンド・マルコス Jr.大統領と当社の桑原 道取締役社長兼 CEO およびフィリピンの大手廃棄物処理企業である Phil Ecology Systems Corp.社（PHILECO）のレジス・M・ロメロ 2 世会長が大阪市内で面談し、同国マニラ首都圏マニラ市における WtE 事業の開発に向けた協力などについて意見交換しました。



【右から 7 番目：マルコス大統領、左から 6 番目：PHILECO Romero 会長、右から 4 番目：当社 桑原社長兼 CEO】

フィリピンでは、廃棄物の埋め立て処理が主流で、環境への配慮、衛生的な廃棄物処理、クリーンエネルギー創出などの観点から、マニラ首都圏マニラ市において WtE 事業が計画されています。本事業は、不衛生なごみ処理の象徴とされるスモークーマウンテンのオープンダンピングによるごみ処理場を、廃棄物から再生可能エネルギーへ変換する先駆的な WtE 施設（ごみ処理量：3,000 トン/日）に生まれ変わらせるプロジェクトとして同国でも注目されています。

今回の「トップ面談」で、マルコス大統領は「マニラ首都圏における廃棄物管理と洪水の問題に関する適切な解決策を何十年も探してきた。この計画が廃棄物をエネルギーに変換しながら洪水を防ぎ、公衆衛生を改善することに貢献するのであれば、私たちは実現に向けてあらゆる手を尽くす」と本事業の必要性・重要性を強調しました。

当社・桑原社長からは、当社が世界で 1,500 件以上の WtE プラントの納入実績があることなどを伝え、引き続きプロジェクトの実現に向けて協力していくことを互いに確認しました。

当社グループは、廃棄物焼却発電における世界のリーディング・カンパニーとして、今後も国内外で広く社会課題の解決に貢献してまいります。

(終)